

### 第3回地域生活移行推進民間提案事業評価委員会の結果（概要）

日時 令和7年3月18日（火）9：00～12：00

場所 大同生命横浜ビル13階会議室6

#### 議題1 会議の公開、非公開について

---

議題のうち、提案法人によるプレゼンテーション及び質疑応答については公開とし、提案事業の評価等については非公開と決定。

#### 議題2 令和7年度地域生活移行推進民間提案事業の評価について

##### (1) 提案法人によるプレゼンテーション

---

社会福祉法人藤沢育成会（以下「藤沢育成会」）から、提案事業についてプレゼンテーションを実施。

#### 【質疑応答】

（内藤委員）

施設の再整備について、今困っていることはあるか。

（藤沢育成会）

湘南セシリアは設立35年以上が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいることや、居室が3人部屋であったり、4人部屋であったりとプライバシーの確保が課題となっている。検討会を重ねながら、住まいとしての機能について権利擁護の視点からも課題を感じているので、そのあたりの課題をクリアにできる形での再整備を考えている。

終の棲み処ではなく、中間施設としての入所施設のあり方も含めて検討して、そうした機能を含めて再整備として取り組めればと考えている。

（富田委員）

重度の方が地域移行するとはどういうことか。どのようにするのか。

（藤沢育成会）

決して場所の問題ではなく、経験や体験を積みながら、その方のその方らしい生活を進めていければと考えている。

（富田委員）

私も一人暮らししているが、当初は練習をした。そのことが役に立っている。

(黒須副委員長)

新しい施設づくりに向けた方向性が含まれている提案であると受け止めた。地域移行というよりも、地域生活を支えるのが、これからの入所施設の社会的な役割になっていくと考えている。なにかあったときに安心して戻れるような、地域に出すのではなく、地域を支えるような施設になっていくことが必要だと考えている。

質問としては、予算書のなかで地域移行に特化した人材の配置については予算が0円であったがそのあたりの説明と、スペシャリストやエキスパートの役割について教えて欲しい。

(藤沢育成会)

地域移行に特化した人材の配置については、県で事業化されている別の予算で対応していくものと考えているため、民間提案事業の予算としては0円とした。

スペシャリストやエキスパートの役割については、入所施設における地域移行に関する情報共有や、取組みの課題感の共有のほか、住まいのあり方は施設だけではなくいろいろあると思うので、グループホームやシェアハウス、単身生活などにおいて様々な関係する機関と連携を諮っていければと考えている。

(在原委員長)

補助事業の3年間では法人の入所施設を中心に専門職集団を作っていくことや、地域に出ていくときに受け止めてくれる地域を作るということをやるということだと理解したが、地域の他の法人との繋がりなどはどう組み込まれているのか。

(藤沢育成会)

湘南東部圏域の入所施設の連絡会を立ち上げたいと考えており、その中で合同研修や、実践報告会などを行いながら取り組みたいと考えている。

施設における周囲の社会資源や立地等が異なるので、それぞれの入所施設の取組みとなると思うが、大事な要素は共有できると考えているので、圏域の入所施設の情報交換や交換研修・合同研修を行いながら、圏域の入所施設の職員の質を向上させてき、それが地域移行に繋がると考えている。

(在原委員長)

グループホームについても、法人が運営しているグループホームとその利用者を中心にやっていく想定か。

(藤沢育成会)

住まいのあり方検討会を考えているが、こちらは法人内外の当事者に参画していただきながら、実際の住まいのあり方も含めて考え、入所施設の改善や、今はない住まいのあり方も話し

ながら地域を作っていくというところを考えてきたい。サテライト的なものや、シェアハウスのようなものなのか、利用者さんにあう地域移行、地域生活を支えていきたいと考えている。

圏域の法人とも共有しながら、その法人が取り組まれていることもあると思うので、そうしたことも吸収しながらやっていきたい。

また、圏域に限らず、国内外の先進的な取組みを学びながらやっていきたいと考えている。

(在原委員長)

湘南東部圏域にもグループホームの連絡会はあるか

(藤沢育成会)

市町単位のものはあると思うが、グループホームも様々な法人が参画して、かなり数が増えてきている中で、圏域単位での実施はなかなか難しい。

湘南東部圏域では入所施設が4か所あり、うち2か所を藤沢育成会が運営している。また、グループホームも12か所運営しているので、モデルを作っていけるのではないかと考えている。

法人内の入所の出口とグループホームの入口という相互の連携を深めながら、圏域にも波及させていきたい。

(富田委員)

地域における利用者サポーターを増やす取組みとはどういうことか。

(藤沢育成会)

当事者が地域で生活する上で、サービスにないところでの支えも必要だと感じている。例えば、買い物で困ったときや道に迷ったときに声をかけてくれるとか、そういった好きな場所で生活する上で、目に見えないサポートを地域の方に理解してもらうことで、当事者が住みやすい街を作っていきたい。

(富田委員)

まずはあいさつが大事。

(藤沢育成会)

現在、地域の商店会と地域清掃をしているが、いままで施設の利用者さんと呼ばれていたのが、名前と呼ばれるようになってきた。そうすると、その方が街で歩いていると挨拶もしてくれる。それが入所施設の利用者さんにおいても地域生活を送ることができる。その先に住まいが変わっても、単身生活やシェアハウスとなっても顔見知りの方がたくさんいる環境で生活できる。それが安心につながると考えている。

(在原委員長)

地域の課題にともに取り組みながらというのは1つ特徴的で、すぐに地域移行という成果になるかはわからないが重要な取り組みだと感じた。

(藤沢育成会)

地域と一緒にというのは、これからというよりも、これまでも法人のスタンスとしてやってきた。これからも同様に取り組んでいきたい。

(在原委員長)

グループホームの組織運営のところもちゃんとやっていかないといけないと国の方の流れもあるが、そのあたりもどう取り組んでいくのか。

(藤沢育成会)

入所施設の出口だけでなく、グループホームの入口の部分の制度などの理解も進んでいかないといけないが、職員が入所施設とグループホームの両方を経験することで色々な見方ができるようになると考えている。

---

社会福祉法人宝安寺社会事業部（以下「宝安寺社会事業部」）から、提案事業についてプレゼンテーションを実施。

#### 【質疑応答】

(在原委員長)

令和6年度に3人の方が入所施設からグループホームに移られたとあったが、どういった方だったか。

(宝安寺社会事業部)

50代、60代、70代の方が移行した。かなり丁寧な意思決定をしながら、施設を出たいという意思があり、1人は社会福祉法人のグループホーム、2人は株式のグループホームへ移行した。

(在原委員長)

移行後の様子はどうか

(宝安寺社会事業部)

一人の方は実践報告会でも挙げている事例になるが、グループホームも施設も丁寧に支援をし、何度も体験を繰り返してきた。グループホームと施設が近い場所にあることもあり、緊密に連携がとれている。

(富田委員)

令和5年度の移行の実績が0なのはなぜか。

(宝安寺社会事業部)

既に4つの施設で地域移行をかなり進めていた。また、令和5年度は9月から始まった事業で、準備等に時間を要したため、なかなか実績が上がらなかった。

(富田委員)

グループホーム職員の研修を実施することはいいこと。

(宝安寺社会事業部)

世話人さんの研修では、やりがいや利用者さんとの距離感などの困り感などを話しながら、参加者の困り感の共有等をしている。

(黒須副委員長)

地域生活移行が難しいのは実感しているが、グループホームで生活するための支援のやり方をしっかり施設のときに用意して、その支援をグループホームでも継続できるようにアセスメントをしっかりして、グループホームに移っても同様に支援するということができないと混乱してしまう。今回移行された方には強度行動障害ではない方もいると思うが、これからも様々な方を送り出すために支援の仕組作りが必要だと考える。

また、グループホームの世話人の方が夜間帯に強度行動障害のある方の支援をすることは難しいと思われる。そうすると、職員の支援体制として、支援員を付けるなど課題があると思うがどう考えているか。

(宝安寺社会事業部)

グループホームでは支援区分が2～4の方が非常に多い。行動障害や区分5・6の方はなかなか入居できない状況にある。これからはグループホームでの支援をバックアップするような仕組みが必要だと考えている。県西圏域でも行動障害の方の支援に強い事業所もあるため、その事業所の職員を派遣したり事例検討をやったり、コンサルをやることも必要だと考えている。

外部講師を呼んで行動障害の検討会もやったが、来年度も研修や実地でのコンサルテーションなどもできればと考えている。

身体障害のある方の入居も難しい状況もあるため、バリアフリーも含めて理解いただきながら、重度の身体障害のある方々の受入れも進められるようにしていきたい。

(在原委員長)

バックアップの仕組みもとても期待される場所だが、提案事業としてはあと1年というところ

ころで、どこまで対応できるのか。

(宝安寺社会事業部)

これまで提案事業は事業所の施設長が兼務して対応していたが、来年度は専従の職員で対応をしていく。

グループホームでもかなり困難事例を対応している。グループホームでは、多様なテーマでの課題を抱えているが、連絡会を通じて課題を共有し、解決策を検討していきたい。

(内藤委員)

若年層の積極的な受入れについて、取組状況はどうか。

(宝安寺社会事業部)

現在はまだ入所施設の空きがなく実施できなかった。7年度は若年層を受け入れて、積極的に移行するという循環型の取組みをしていきたいが、まだ実績がない。現在はまだ評価シートの検討をしている。

児童の施設からはぜひ取り組みたいという声もある。児童の施設も年齢により退所が迫られてしまう中で、支援が完了しないまま地域に出て行ってしまうということもある。そうした方々が一度施設に入所し、地域での生活をする準備をしてから地域に出ていくという循環型の取組みをしていきたい。

今後、入所施設で空きが出たら取り組んでいきたいと考えており、施設においてグループホームで生活できる力を付けるような支援ができればよいと考えている。

(在原委員長)

令和7年度の取組課題を3つ挙げていただいていたが、最後にアピールがあればお願いしたい。

(宝安寺社会事業部)

県西圏域全体のスキルアップを進めていきたい。施設側が、グループホームが何をやっているか分からないとなるのではなく、施設と一緒にグループホームが抱えている課題を解決していく中でスキルアップしていきたい。繰り返しにはなるが、良質なサービスを提供できるように心がけたい。そのためには、地域の力を借りていかなければいけない。地域連携推進会議も始まるので、自治会や民生委員や利用者、家族の声をどう反映していったいいかというところにも力を注ぎたい。

---

社会福祉法人常成福祉会（以下「常成福祉会」）から、提案事業についてプレゼンテーションを実施。

## 【質疑応答】

(富田委員)

地域生活移行に係る支援機関の顔の見える関係性づくりとはどういうことか

(常成福祉会)

イメージとしては、グループホーム、入所施設、精神科病院、相談支援専門員などがお互いにどこかで聞いた話でお互いを知っているという関係性になるのではなく、お互いに実際に顔を合わせて、関係性を作っていきたいと考えている。

(内藤委員)

グループスーパーヴィジョンを利用したとあるがどういったことか。

(常成福祉会)

集合研修で世話人や、管理者、サービス管理責任者がグループを作って、1つのケースについて、支援のアイデアを出し合ったりして、検討するというやり方をとっていた。

相談支援専門員やサービス管理責任者になるための養成研修で使われている手法で、地域で利用者さんを支える事業所が事業所の中で事例検討を試みるのに推奨されているもので、有名な講師を呼んでこななくても自分たちでできるということや、利用者さんの強みを最大限生かして、支援を導き出そうというところが特徴的なもので、日々の業務が忙しいと支援者目線の支援になりかねないが、そこで立ち止まって視点を変えることができるのがこの手法だと考えている。

初めて参加した人も手順に乗ってやると、視点を変えて持ち帰ることができるので、簡便さだけでなく、効果的だと考えている。

(内藤委員)

映像をみながら検討していくのか。

(常成福祉会)

当事者の支援者がどこの支援で困っているかを明文化してくる。それをみんなでどうするか考えていくもので、映像は特に使用しないことが一般的。

(黒須副委員長)

移行先の受け手となるグループホームの課題を浮かび上がらせるのがポイントだと思うが、その課題をどうやって取り組んでいくのか考えはあるか。

(常成福祉会)

まずは事例検討会を開催する。

(黒須副委員長)

どういったメンバーが参加するのか。

(常成福祉会)

各市町の連絡会と共同して、市町に所在するグループホームのサービス管理責任者や世話人や支援員とやることを考えている。

また、講師を呼んで実施する研修等も考えている。事例検討会への参加を呼び掛けたときに手を上げてくれたグループホームも多かったので、令和7年度も引き続き実施し、質の向上に取り組んでいきたい。

(在原委員長)

グループホームや精神科病院や障害者支援施設の連携の不十分さというところに課題を感じて、顔の見える関係性を作るというところを取り組むということだが、病院の実施したアンケート調査では、情報のやりとりの不足以外に、連携していくための役割の明確化など、実効性のところで課題等がでてきていないか教えて欲しい。

(常成福祉会)

病院の実施したアンケートでは体験利用の回数を重ねたい、じっくり重ねたいといったことがあがっていた。グループホームでも空き室を作っておくと、継続的な運営に支障が出るので、可能ならば速やかに入居してもらいたいという意向もあるのではないかと思うが、病院としては、入院期間が長ければグループホームでの生活が本当に可能なのか、グループホームでの生活でどういった支援が提供されるのかなどを知りたいのではないかと思う。そうしたことから、体験利用を重ねたいというアンケート結果に繋がっているのではないかと推測している。

(在原委員長)

そうした課題についてなにか対応できるのか。

(常成福祉会)

まだグループホームも病院側の課題感を受け止めきれていないのではないかと考えているので、病院とグループホームが顔を合わせて課題感を共有するほか、事例を通じながらニーズ等を理解しあうことで進めていきたい。

(在原委員長)

グループホームを訪問すると物が壊れているということもあると聞いたが、なにかバックアップしていくような方法は検討しているか。

(常成福祉会)

今回の事例では、地域の基幹相談支援センターが介入を始めていた。そこから事例検討をしていった。しかし、当事者の援護地とグループホームの居住地が離れていたため、グループホームも行政に相談したかったが繋がりがなく、抱え込んでしまい対応に苦慮していた。

そうしたことを踏まえ、グループホームが孤立化してしまっている事例があるので、どこの地域のグループホームも連絡会に繋がってもらうことが大事だと考えている。

---

社会福祉法人唐池学園（以下「唐池学園」）から、提案事業についてプレゼンテーションを実施。

#### 【質疑応答】

(富田委員)

日中サービス支援のグループホームのビジタールームは面白そう。

(唐池学園)

日中サービス支援型では必ず短期入所を作らないといけないとされている。重症心身障害児者の方の短期入所については、看護師の部分で夜間帯までは呼吸器等の対応があると難しいという課題もあるが、そうした部分もやっていければと考えている。

(富田委員)

施設職員等とも一緒にとあるがどういうことか。

(唐池学園)

法人の独自事業ではあるが、ご家族などもグループホームに泊まってもらって、本人だけでなく一緒に体験して、支援を見てもらうことで安心してもらうことができると考えている。

(黒須副委員長)

グループホームの体験については、現在も制度はあるが、入居の前段階という形の制度であるので、ホテル感覚ではないが、グループホームの生活を体験するために、どんどん使えるような仕組みは大事だと考えるので、ぜひ進めて欲しい。

(内藤委員)

前進的に進めていただけているので、ぜひ積極的に取組んでもらいたい。

(在原委員長)

魅力的な取り組みだと思うが、なぜ参加したい人が少ないと考えるか。

(唐池学園)

入所施設側も空きが出てしまうことに抵抗感があるのかもしれないし、家族も地域で暮らすことに理解がないというわけではなく、地域の現状に安心できないといったこともあるのではないかと考えている。

(在原委員長)

令和7年度の事業計画にある、地域の暮らし推進会議のところをもう少し具体的に教えてもらいたい。

(唐池学園)

この取組みを進めていくことで、入所者を送り出した施設や、受け入れた事業所などが増えていく。そうした実績を持った施設や事業所等や学識経験者、当事者などを交えて、取組みの中で見えてきた課題やどうしたら取組みをより進めていけるのかなどを検討していきたいと考えており、生活体験報告会ともリンクしながらやっていきたい。

### 議題3(2) 採点等

---

提案法人によるプレゼンテーションと質疑応答を踏まえて、提案事業の採点等を実施。

(以上)